

今月の星空



川口市立科学館
Kawaguchi Science Museum



tel 048(262)8431

http://www.kawaguchi.science.museum/

11月 (2024年)

中旬 20 時頃



月 齢 ● 新月 1日、◐ 上弦 9日、○ 満月 16日、◑ 下弦 23日

惑星情報

金星 日の入後 南西(へびつかい→いて座 -4等) 火星 真夜中 東(かに座 0→ -1等)

木星 真夜中 東→南東(おうし座 -3等) 土星 夜のはじめ頃 南(みずがめ座 1等)

★秋の四辺形～夜空にぽっかり開いた窓～

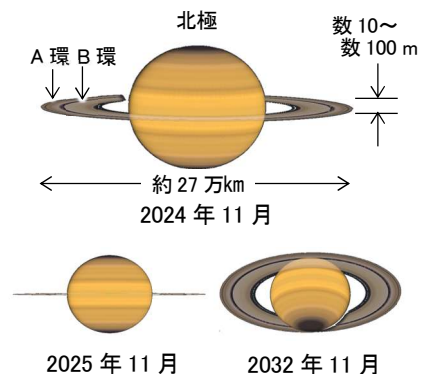
夜のはじめ頃、2等から3等の4つの星がきれいな四角形を作る「秋の四辺形」が天頂付近に見られます。目立つ星が少ない秋の星座探しの貴重な目印です。日本では、四隅星(よつまぼし)や柵形星(ますがたぼし)などの呼び名があります。この四角形の内側にも星はありますが、4等よりも暗い星ばかりです。ギリシャ神話では、この四角形を「神が地上をのぞく窓」に、内側のかすかに見える星を「神の目」に見立てたそうです。実際に、天窓のような天頂付近にある秋の四辺形を見上げてみましょう。

また、秋の四辺形の周囲には、明るい星があり見つけやすいアンドロメダ座やカシオペア座がある一方で、4等以下の暗い星たちが秋の四辺形を“V”の字ではさむ形で並ぶ、うお座も見頃です。2匹の魚がリボンのような紐で結ばれた姿で描かれたうお座は、ギリシャ神話の愛と美の女神アフロディーテとその息子エロスが怪物から逃れるために変身した魚の姿とされています。

★極細の土星の環を見よう

約30年かけて太陽をめぐる土星が、今年は秋の四辺形の近くに位置していて見頃を迎えています。望遠鏡を使えば、美しい環を見ることもできます。この環は、細かい氷の粒が集まってできていて円盤状に見えるものです。右図のとおり、差し渡し約27万kmの巨大な環の厚みは、わずかに数10mから数100mほどと考えられています。

土星は自転軸が約26.7度傾いた(地球の場合は約23.4度)状態で公転しているため、地球から見る土星の環の傾きは約15年周期で大きくなったり小さくなったりします。右図のように、今年は、わずかに傾いた環が見え、2025年になると、ちょうど環を真横から見る時期があり、その後は、環をななめ下(南半球側)から見上げるように傾きが大きくなっていきます。2032年頃には、環の傾きが最大の土星が見られます。



©StellaNavigator/AstroArts

図 土星の環の傾きの違い